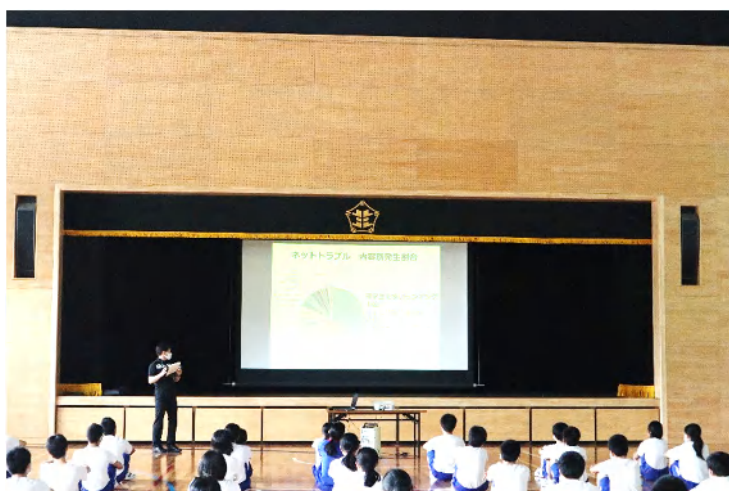


7月27日（月）

川口主幹教諭の情報モラル講話

生徒たちが自分の力で身を守らなければならないのは、新型コロナウイルス感染症や自然災害だけではありません。ネット社会において生きていかなければならない生徒たちは、正しい知識、適切な判断でネットの闇からもわが身を守らなければなりません。今年度、本校の川口主幹教諭の指導で、全学年において「情報モラル講話」が実践されることとなりました。



この日は体育館において、3年生対象に講話がなされました。

「Society5.0」と呼ばれる社会で、生徒たちは生きていかなければならないことから話は始まり、生徒たちは興味半分、緊張半分で耳と目を傾けました。

その後、瑞浪北中の実態に話は進みました。本校においては95パーセントの生徒が、普段スマホ

パソコン、タブレット等でインターネットを利用しています。使用目的の多くは、動画やSNS。35パーセントの生徒（3人に1人）が、毎日120分以上利用している事実。64人が100～500回以上のSNSのやり取りをしているということに至っては、もはや「重症」と言えます。川口主幹教諭は、生徒の実際の姿の中から、北中生の課題をみつけ、生徒たちに投げかけました。

その後は生徒たちに正しい知識、適切な判断を促すために、どうすべきかの話が具体的なケースを提示してなされました。

生徒たちは自分たちの喫緊の課題として耳を傾け、真剣な面持ちで講話を受けました。

